

抑当山の身代り薬師如来と申奉るハ行基菩薩の彫刻し給ふ所にして往昔陸奥国会津里伊藤修理大夫光重の家に安置し奉る所の尊像なり光重ハ人皇八十六代四條天皇の御宇鎌倉執権北条氏に事へて寵道甚た渥く才文武を兼ね名譽世上に高して拔群の勇将なりしか佞臣諫を構ふるに遭ひて主君の意に逆へ身を会津の草江兵庫頭貞氏の邸に遁る然れとも主君の憤怒猶末に休まず仁治三稔壬寅八月六日に家臣長崎弾正を遣して追討せしむ鎌倉の勇士高工左近修理と相打て耦刺して死す軍兵修理か首を馘きて櫃に納れ齋し行にて鎌倉へ帰んとし斯里に到る小憩の後拳んと欲するに櫃倏忽として重こと大磐石の如く揺動すること能ず衆人周章惶怖て蓋を去て之を見るに薬師如来の尊首巍々として在す軍衆茲に於て惘然たり議して鎌倉に訴ふ時氏之を怪み使を会津に遣して其実不を探しむるに光重は恙なく其常に護念する所の本尊唯尊容のみありて御首を見奉らず闔邑喧伝驚歎渴仰の声街路に溢る使鎌倉に還て営中に言す北条時氏光重の冤を知り懺悔して光重を赦し御首を鎌倉に迎ひ奉むと欲し再三使を遣せとも猶動かさること初の如し是より先此地の領主形辺左衛門尉一夕夢らく如来紫磨金色の尊容を現し光明赫奕として告て曰く汝我像を此處に安置せしめよ我此に在て一切衆生の諸の病苦及劍難厄難等の憂苦の身に代るべしと形辺夢覺て仏勅の嚴容なるを感じ隨喜の涙を押へ夢想を官に訴へ里民と力を戮て一字を建立し安置し奉らんと請ふ執権即ち之を許す是に於て一草堂を建て御首を移し奉らんとするに其軽きこと毛の如し里民の尊仰益賀其後二十余年を経て渋谷丹後感応の掲焉なるに遭ひ長宥阿闍梨及遠近有信の人々と力を併せ像軀を製して尊首に合せ以て全容を完成し奉りぬ是より靈驗益顯著にして響の音に応するが如く詣者群をなし五百の星霜を閲して渝して諭ることなく殊に徳川氏の時代には会津の太守參勤交代の砌は使を走て燈料を献し武運長久の祈禱を捧て之を恒例となせりといふ斯る靈像も榮枯盛衰は免かれ給はず明治三十四年九月二十七日火災に罹堂宇尊容灰燼となりて失せ給へぬ然るに時の住職元光僧都其晝如来の靈告を蒙り燼中を探りて御腹籠の秘仏を感得し奉り檀徒の協力して俄に一字を宮なみ秘仏を安置し奉る今の本尊是なり後幾もなくして小柄精秀當時に晋むに及び檀徒有信の士益外護の赤心を尽して今の堂宇を建立し一山の修繕を成り今茲甲寅の年に遭て本尊の開扉を行ふる方り旧記を略叙して以て其靈徳を讃すといふ